

日本大学大学院商学研究科カリキュラム・ポリシー（商学専攻）

I 博士前期課程

博士前期課程 商学専攻では、マーケティング、流通、金融など学生の幅広い関心に対応する高度な専門的学識を授けるために、コアとなる専門科目および個別指導をベースとした演習科目を設置している。また現代社会の変化に対応するべく、専門分野の知識だけではなく、周辺分野の知識を広げることを意図して多様な関連科目なども設置することで、学生の多様なニーズに対応している。

- CP① 講義科目と演習を体系的に組み合わせて、研究およびビジネスに役立つ高度で専門的な知見と、新しい知識やスキルを生み出すための学際的知見を同時に修得させることを目指す。
- CP② 演習科目等においては、小人数教育を基本とし、指導教員から丁寧な個別指導を受けることで、独自性の高い研究テーマや問題の発見力および問題解決能力などを育成できる体制を整えている。
- CP③ 商学分野に関する高度な専門分野の知識・スキルの修得を基盤にした、論理展開力、コミュニケーション力、挑戦力、リーダーシップ力、協働力などの育成に関しては、各専門科目の評価、指導教員による個別評価、さらには学位論文の成果評価等を組み合わせて多角的な視点から評価する。

II 博士後期課程

博士後期課程 商学専攻では、商学関連の研究分野においてより新規性の高い研究業績を生み出せるよう、高い専門性と高度な研究能力を持った学生の育成を目指すため、指導教員による徹底した個別指導を行う。

- CP① 論理的・批判的思考力を用いて様々な社会およびビジネス現象の諸問題を専門的、学際的両方の視点から見だし、それらの問題を定性および定量的手法によって因果関係のメカニズムを明らかにする能力を育成する。
- CP② 指導教員による論文作成指導および複数の教員による研究指導体制を導入することにより、専門分野のみならず関連・周辺領域までの知識を学習することで、研究視野の広い独創的な研究者の育成を図る。
- CP③ 自立した研究者としての能力とスキルである独自性の高い研究課題の発見力、論理展開力、コミュニケーション力、さらには新しい課題に対して取り組むという挑戦力などについては、演習での指導と、各種学会での報告、学位申請論文の評価などを多角的に組み合わせて評価する。

日本大学大学院商学研究科カリキュラム・ポリシー（経営学専攻）

I 博士前期課程

博士前期課程経営学専攻においては、経営学分野の領域を体系的に学習できるように専門科目と関連科目が配置されている。さらに、専門科目、関連科目に個別指導をベースとした演習科目を組み合わせることで、独自性の高い研究能力および実践的に応用可能な能力を育成することができる。カリキュラム・ポリシーとしては、次のような点を特徴としている。

- CP① 講義科目と演習を体系的に組み合わせて、研究およびビジネスに役立つ高度で専門的な知識やスキルを修得させることを目指す。
- CP② 演習科目等においては、小人数教育を基本とし、指導教員から丁寧な個別指導を受けることで、独自性の高い研究テーマや問題の発見力および問題解決能力などを育成できる体制を整えている。
- CP③ 経営学分野に関する高度な専門分野の知識・スキルの修得を基盤にした、論理展開力、コミュニケーション力、挑戦力、リーダーシップ力、協働力などの育成に関しては、各専門科目の評価、指導教員による個別評価、さらには学位論文の成果評価等を組み合わせて多角的な視点から評価する。

II 博士後期課程

博士後期課程経営学専攻では、学位論文作成において複数教員からの体系的な研究指導を通じて、高度な研究能力と論理的な思考能力を養成し、大学および他の研究機関で活躍できる能力を育成する。

- CP① 論理的・批判的思考力を用いて様々な社会およびビジネス現象の諸問題を多様な視点から見だし、それらの問題を定性および定量的手法によって因果関係のメカニズムを明らかにする能力を育成する。
- CP② 指導教員による論文作成指導および複数の教員による研究指導体制を導入することにより、専門分野のみならず関連・周辺領域までの知識を学習することで、研究視野の広い独創的な研究者の育成を図る。
- CP③ 自立した研究者としての能力とスキルである独自性の高い研究課題の発見力、論理展開力、コミュニケーション力、さらには新しい課題に対して取り組むという挑戦力などについては、演習での指導と、各種学会での報告、学位申請論文の評価などを多角的に組み合わせて評価する。

日本大学大学院商学研究科カリキュラム・ポリシー（会計学専攻）

I 博士前期課程

博士前期課程会計学専攻においては、財務会計、管理会計、監査などの会計学分野の領域を体系的に学習できるように専門科目と関連科目が配置されている。さらに、専門科目、関連科目に個別指導をベースとした演習科目を組み合わせることで、独自性の高い研究能力および実践的に応用可能な能力を育成することができる。カリキュラム・ポリシーとしては、次のような点を特徴としている。

- CP① 講義科目と演習を体系的に組み合わせて、研究および会計実務に役立つ高度で専門的な知識やスキルを修得させることを目指す。
- CP② 演習科目等においては、小人数教育を基本とし、指導教員から丁寧な個別指導を受けることで、独自性の高い研究テーマや問題の発見力および問題解決能力などを育成できる体制を整えている。
- CP③ 会計学分野に関する高度な専門分野の知識・スキルの修得を基盤にした、論理展開力、コミュニケーション力、挑戦力、リーダーシップ力、協働力などの育成に関しては、各専門科目の評価、指導教員による個別評価、さらには学位論文の成果評価等を組み合わせて多角的な視点から評価する。

II 博士後期課程

博士後期課程会計学専攻では、学位論文作成において複数教員からの体系的な研究指導を通じて、高度な研究能力と論理的な思考能力を養成し、大学および他の研究機関で活躍できる能力を育成する。

- CP① 論理的・批判的思考力を用いて、様々な会計行動や会計事象の諸問題を多様な視点から見だし、それらの問題を定性および定量的手法によって因果関係のメカニズムを明らかにする能力を育成する。
- CP② 指導教員による論文作成指導および複数の教員による研究指導体制を導入することにより、会計学分野のみならず関連・周辺領域までの知識を学習することで、研究視野の広い独創的な研究者の育成を図る。
- CP③ 自立した研究者としての能力とスキルである独自性の高い研究課題の発見力、論理展開力、コミュニケーション力、さらには新しい課題に対して取り組むという挑戦力などについては、演習での指導と、各種学会での報告、学位申請論文の評価などを多角的に組み合わせて評価する。